

小學會話之捷徑

井田猪之助著

卷下

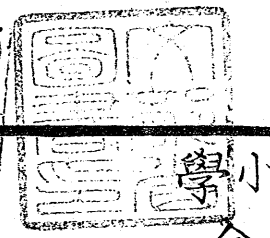
館藏書名	176
	7
	336
四	一
六	函
三	
册	

三本

會話の捷徑卷之下

袴羽織

織



小學

會

話

の

捷

徑

卷

之

下



部

えは

林原

羽織着物の上ふきまを○袴を着物の下ふきまを○原を地面の平かふ廣きところをいふ○林を平らにして樹木の繁茂あるとあるをいふ○原ふハ雑草の澤山をいふて林ふハ鳥の沢山をいふ○私を学校へ羽織をき袴をいいてまいらばを

蠅

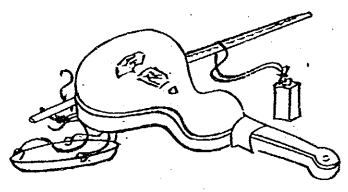


柱圃鳳凰
母蠅帟鼯鼯

蓮



秤

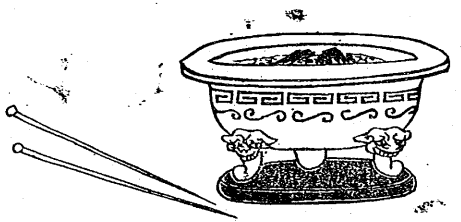


鼻蝨斯蠅
齒海鰻聚筆
濱初葺桔槔
膚花火薄荷
槁齒磨剪刀

會言の部 經 卷 下

火 箸
火 鉢

匕
ノ
部
心 心



膝 額

三

會言の部 經 卷 下

蜂

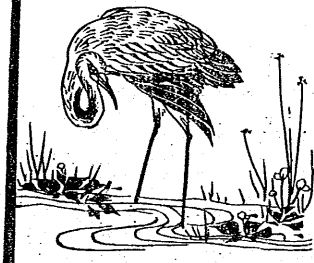
蛤



萩 鋼
箱 箸 機 鉢 羽
梯 帚 驚 腸 菜
貊 怕 彈 塗 魚
腹 芭 蕉 蟹 鍼

火鉢、小火を入きておさましやう。○火箸を鍍よ
りも鎮銅のほうらよ之のありませら。○額、不髪
さかりました。○膝上山猫ありませら。○客の
まましたら火鉢、小火を入れ火箸を洗けてだ
し、海しやう。○小兒の走りあやむ、つまついで額
と膝をそりました。

鴻



日、第、蛸、曾、孫、
火、屏、風、蟾、蜩

豹



臂、抽、匣、施、花、
肘、燈、蛾、琵琶

鷓



電、白、檀、山、丹、

羊



錐、碑、磨、紐、蛭、
人、芟、檜、批、把、

笛

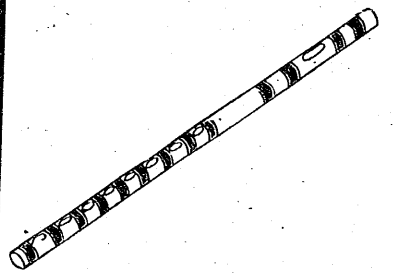
フ

ノ

部

フ

鸚。苦。瓠。髭。

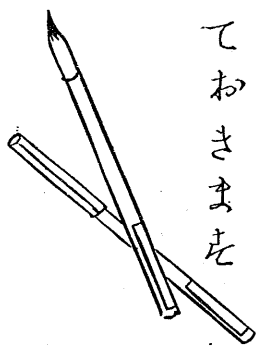


囊



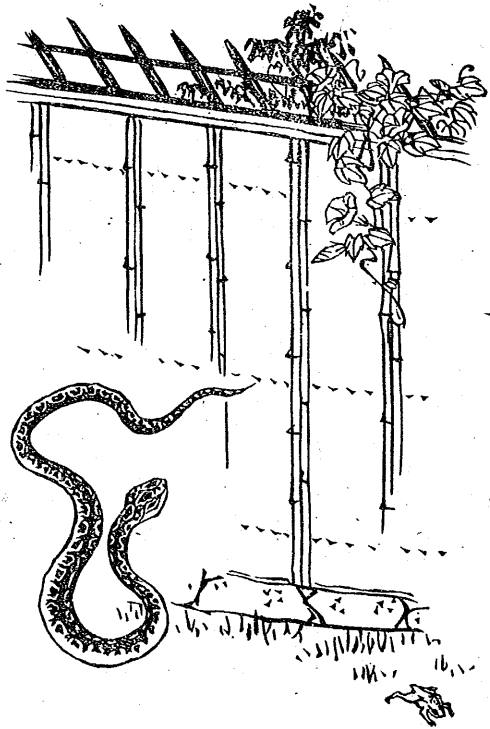
笛の音々哀れふありませ○此囊比中ふ何う
りませう○人が笛を吹き終りませと囊のふ
ふーまひておさまを

筆



麓。芙。容。河。豚。
褥。手。帕。禪。襦。

蛇屏



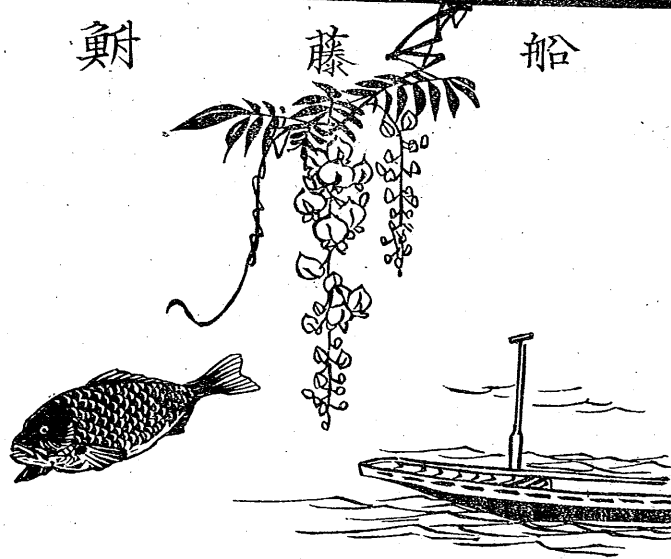
部

魚

鮒

藤

船



富士山

節鹿角菜鞆

被扶桑冬鴉

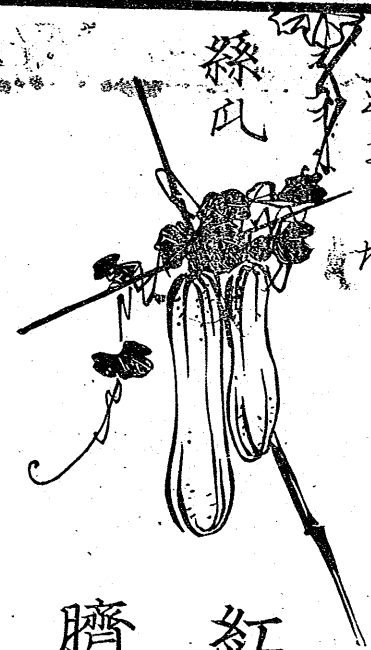
淵藤袴規篩

鱸婦人葡萄

會言の枝徑者之

會言の枝徑者之

屏小牽牛花がからみてさきまゝにた○蛇う蛙を
のみてをりまを○隣家の屏のうへに大きき蛇
う出まゝにた



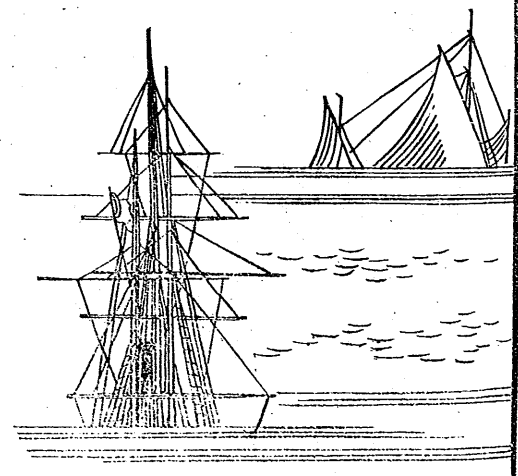
絲瓜

紅紅雀辨當
臍尻

ホノ部

何何

帆 檣



帆を木綿を以て造りまを○大なる船も檣が
三本ありまを○今日もよき風うふまゝにて沖
の船う帆をりけてをりまを

螢



星原朴酸漿

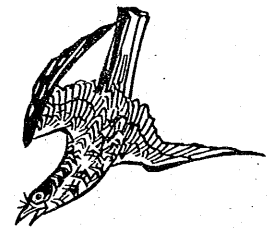
洞車渠螢草

堀骨帽子

戈本鯛牡丹

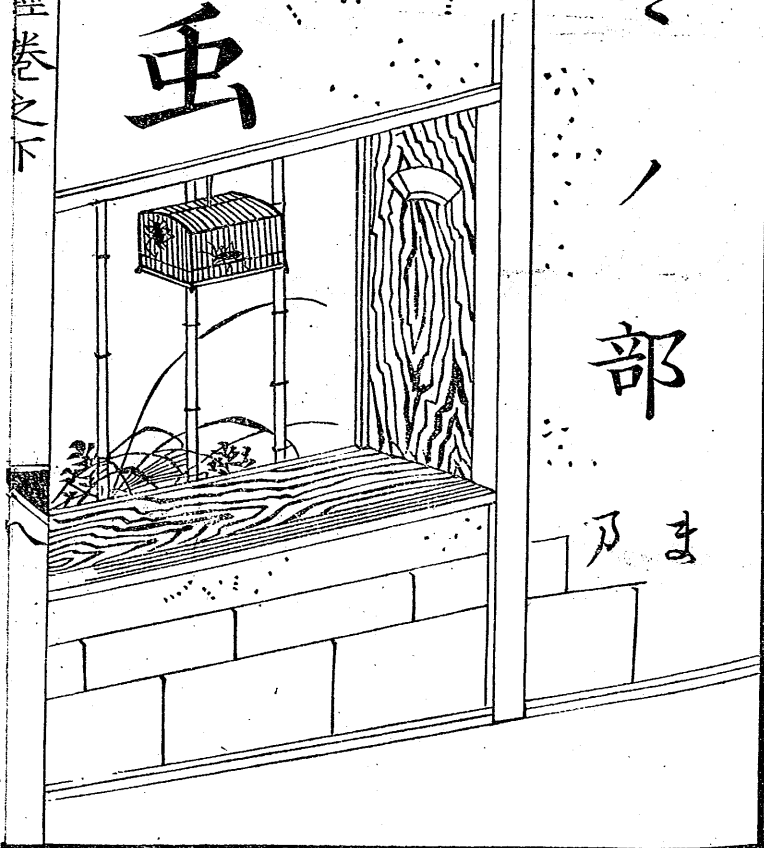
木瓦

杜鵑



窓
松
虫

會話の雑經卷之下



マ

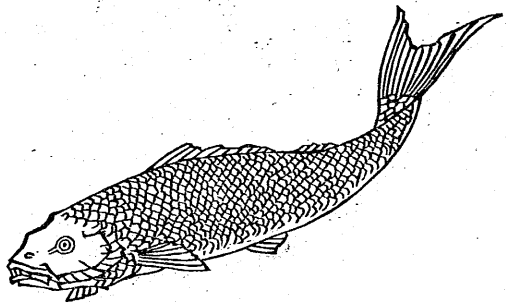
ノ

部

乃ま

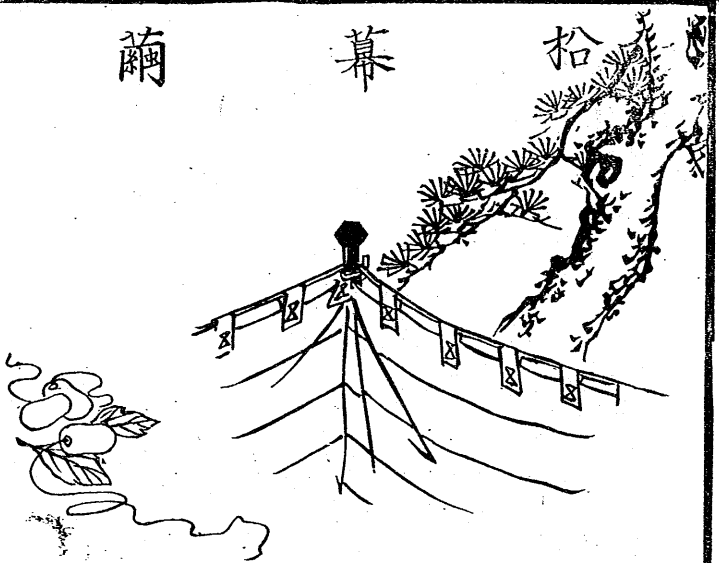
窓より涼き風が入りまそ○松虫が山ふたぐ
きんをりまーた○窓の鴨居ふたゝしてゐる籠
のふらで松虫がふきまーた

鱒



町馬子、蝮蛇、
孫甜瓜、饅頭、
眉、松草、木砧

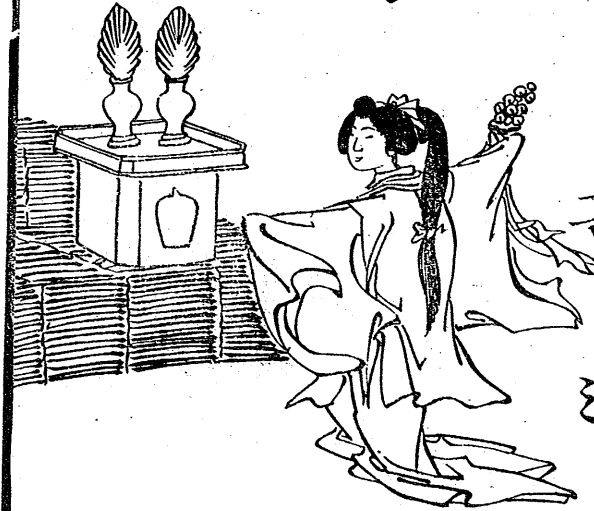
繭、幕、松



豆、松菜、舞、
牧、鞠、矩、檀、
的、鯨、外、旗、
枕、菰、藤、天、蓼

ミノ部
ミ

神子
神酒



湖峯

神子ウ祈禱をしてをりませ○神の神酒をつ、
しんで此とませ○遠方の峯ウ青くみにませ○
近江の湖小をる鮎五郎ふふとませ一はと
○太神宮さま此祠小神子ウ神樂を所けて祈禱
をー又神酒を吟けて幸福をいれりませ

蓑



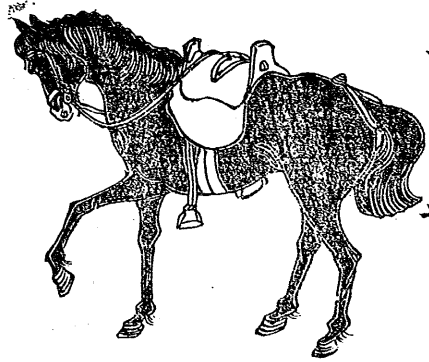
宮。鴟。都。鳥。
道。蛭。水。車。

馬 鞭

ムノ

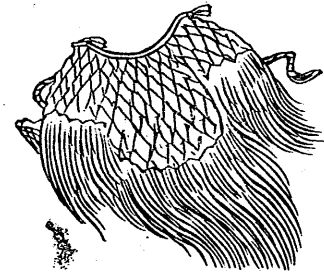
部

心



蛟

箕



溝店

醬汀梢篋子

肱美淋酒耳

霽蜜柑湊都

水硯滴水銀

今日も馬小乗りてとうとゆきまき〇鞭と竹小
て造る也又と鉄ふて造る也〇馬小鞭をうてを
と予とをりまき

麥



蟲室 掠鳥 掠

貉



棟娘 筵紫胸 百足

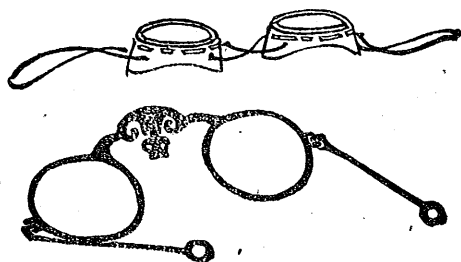
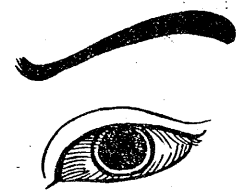
眼鏡 目

メ

ノ

部

色め



目小よまを此をみました○老人は眼鏡をうけ
ぬとを此に見ませぬ○私に近眼ゆゑ近眼鏡
をうけませんけは遠方を見ませぬ

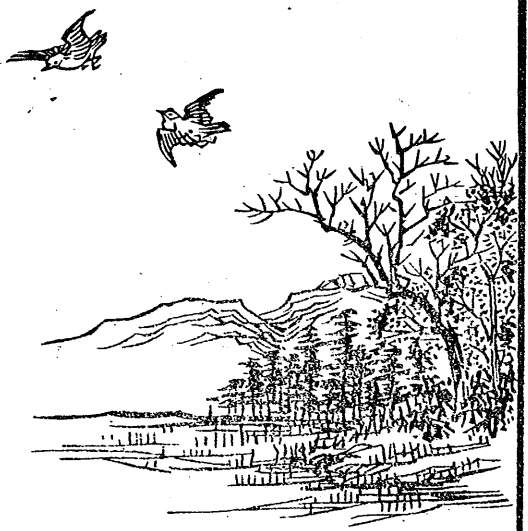
茗荷



飯、瑪瑙、飯

毛ノ部
とも

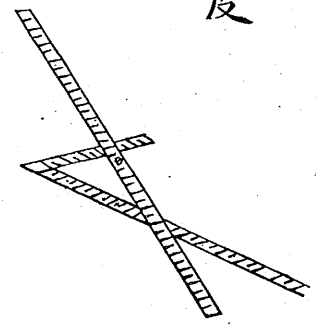
森 鴉



森は樹木の繁茂したるところをいふ○鴉は木
のみを食ひまを○森の中小鴉が多々飛びてを
りまを

桃

度



門。木。香。木。魚。

股。木。綿。藻。霧。

糯。秣。物。黍。穀。

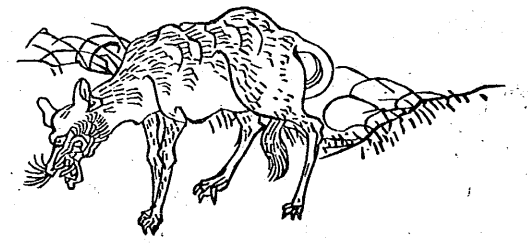
ヤ

ノ

部

至也

山 豺



矢 鎗

山小松々たえさんそへまを○豺う夜ふあると
出で、食物を求めまを○矢もむろー此武器下

何りまを○ひくく一は武士の鎧の響古を致し
した○昔も矢や鎗を以て戦争いたし
た

柳

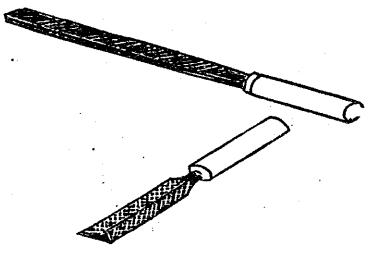


社。山雀。銅鐘。

宿。山吹。山雞。

櫓。藥碾。柳子。

鑿



鯉。揚弓。薯蕷。

鏃。

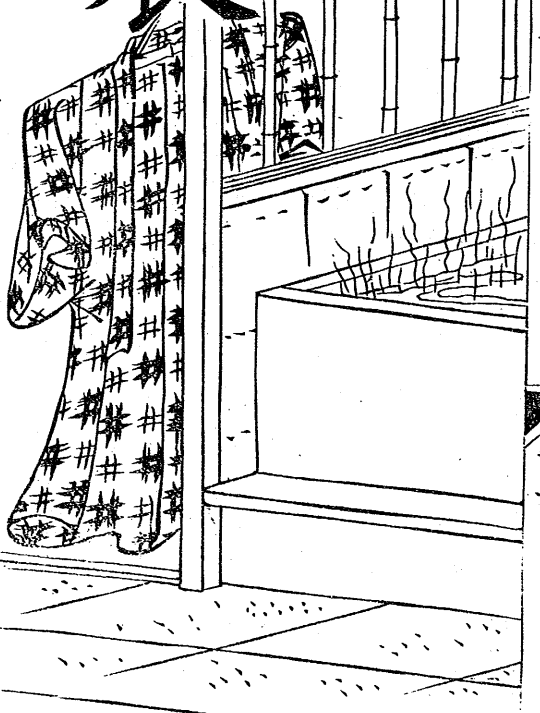
ノ部

イト同シ

ユノ部

由

浴衣



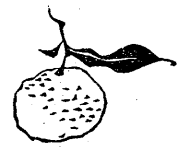
私に養生の為小毎日浴あびいたしませ
浴衣々まれましたうら新いき浴衣をあいらひ
まーやう○人々浴あら出ると浴衣をまませ

弓



湯。百合。弦。月。

柚



雪。櫻。桃。讓。葉。

床。席。耳。草。指。

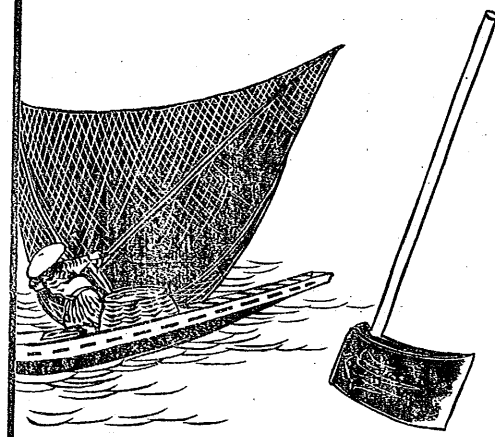
壺。盧。

イノ

部 エト同シ

ヨノ部
よ

樵斧
提罾



樵斧を木をきるを比て有りませ○提罾を魚をとらふるを比て有りませ○樵夫も樵斧をとつて山ふ木をきりしゆき漁夫も提罾をとつて奥をとらへみまゐりませ

艾



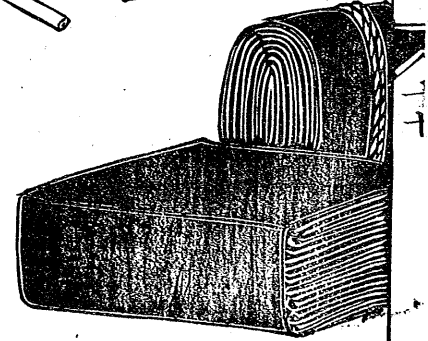
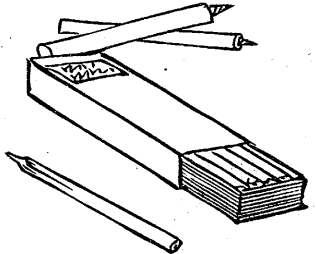
ラハ部
ら

蘆
涎。涎。懸。横。笛。

羅沙

蠟燭

羅沙も獸の毛から造りませ○蠟燭もあふうら
造りませう○當時を羅沙と蠟燭うたえさん西
洋から舶来いたしませ



蘭花

鸞



駱駝 喇叭

乱菊 水晶葱

欄檻 羅世板

リ
ノ
部
リ

鼯鼠 檣

鼯鼠ハ鼠の種類で有りまをる○檣も種類有た
くさん有りまをる○園の檣の木ハ鼯鼠は此有り
まして実を食ひまをる

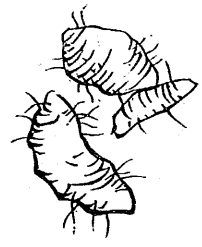


龍



琉球、兩頭蛇、
綾子料理

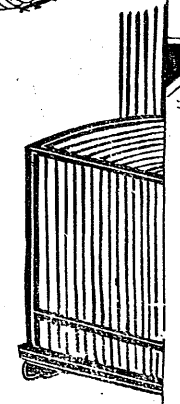
甘藷



龍腦

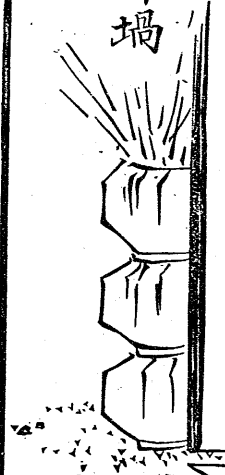
ルノ部 係る

瑠璃鳥



瑠璃鳥が籠のふらでなまきまは○瑠璃鳥の籠を
らふけました

井堀



流 瑠 罪 璃 呂 守 宋

蓮花草

レノ部

これ



蓮花草々春ふあると野原小花毛檀の如之奇麗
ふさきまを○小兒ら蓮花草をとりて遊ひまを

荔枝



連翹 連雀

靈芝

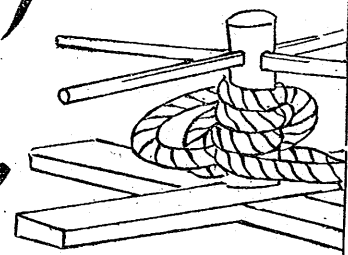
口ノ部 詔ろ

牢獄



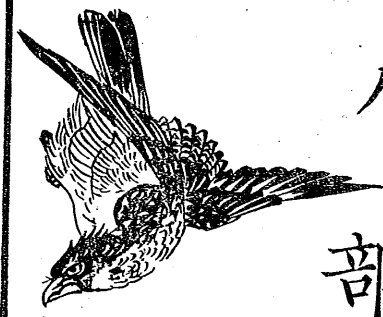
此人を悪吏を爲せ去るを牢獄小繋るあり私を
は人の牢獄ふつありををみて悪事をせぬよ
うにいたるまを

轆轤



ワ、

就鳥



部

己お

爐六

羅綠青

鰐



驚を鳥のとつとも強きは乃でありまを○鰐ろ
ある池小をえてをりまはる○驚の時とをると
小兒をとらへて由ま鰐も亦人を害しまを

蕨



童石尊分葱

腕



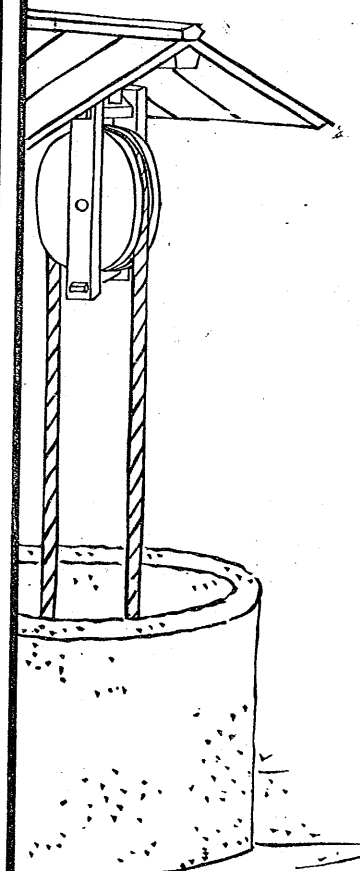
脊、鰐、口、綿、腋、輪、私、渡

斗

部

る

井



朝々や々下婢か井一水を汲ふまいりまを○井
水道と堀井とぞちらふよくゆりまを

猪



部

ウト同シ

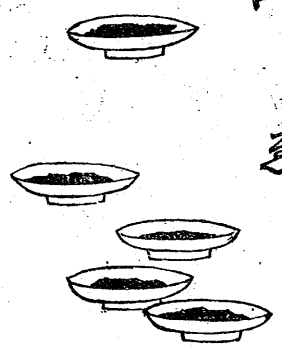
院、膝、行、位、牌、臂、龍、盤、魚、鑄、治、豕

于

工ノ部

急

繪具



繪具の色をいふつゆりませる○畫師の繪具を
とつて画をかまます

槐



衿屠兒

子ノ部

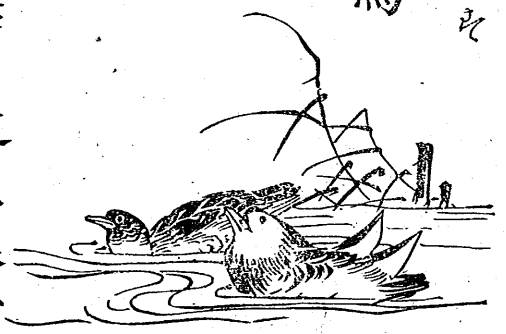
致を

叔父 叔母



叔父とハ父母の兄弟をいふ○叔母とハ父母の姉妹をいふ○私を叔父をもたぬ一ハ志叔母のりまを

鴛鴦



男、折本岡、
女、桶尾、芥

小學會話の捷徑卷下終